

# なかがわ

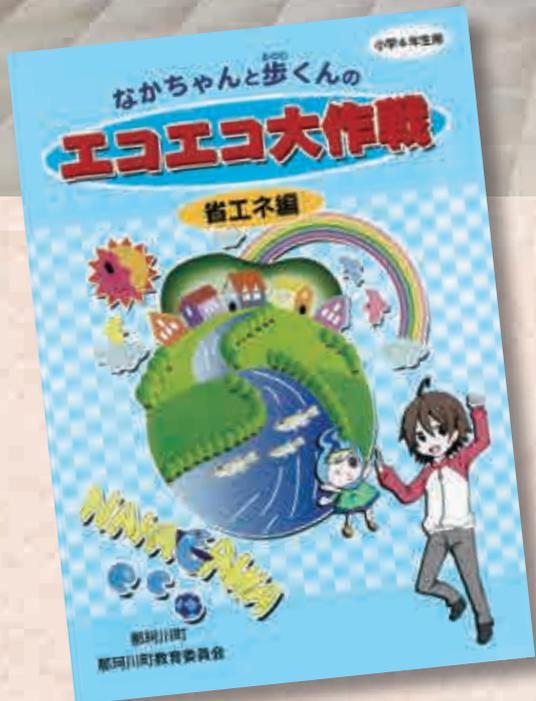
広報

2013. 5



No.92

- 誰もが地域で安心して暮らせるように 2
- なかがわ元気プロジェクト連絡協議会の委員を募集 4
- 環境学習支援制度のお知らせ 6
- 犬の登録及び狂犬病予防注射日程 7
- 入学・入園おめでとう 8



環境教育用小冊子を贈呈 (9ページをご覧ください)



第92回

## 「木曾道中 岩村田」

中山道は道中に木曾路を通るので「木曾街道」とも呼ばれ、東海道とともに江戸と京都を結ぶ重要な街道でした。日本橋から京都の間には69の宿駅があり、東海道とは京都の手前の草津で合流します。

この街道の旅風俗を描いた揃物「木曾街道六拾九次」は、溪斎英泉と歌川広重の合作によるもので、名所絵の傑作の一つに数えられています。天保6年（1835）頃英泉によって始まりますが、24図を描いたところで何らかの理由により制作を中止してしまい、広重が残りを引き継いで、天保13年（1842）頃全70図が完結します。

図は、英泉の描いた木曾街道22番目の宿、岩村田の風景です。名所絵としては珍しく座頭の喧嘩が描かれています。杖を振り回して掴み合いをする二人。そのまわりには喧嘩を止めに入る者、見物する者、地面に落ちたお金を拾い集める者、そして尻尾を巻いて遠くから吠えている犬もいます。迫力のある、でもどこか滑稽味の感じられる絵です。この絵を描いた理由については様々な憶測を呼び、岩村田の人々の荒々しい気性を表しているとか、このあたりで退陣する英泉のすさむ心を表したものとかが、あるいは、版元と英泉のトラブルを示唆したものなどといわれています。

英泉は美人画の第一人者として認められ、浮世絵師として成功をおさめましたが、その一方、私生活は放蕩無頼なものでした。絵を描いている途中に行方不明になってしまい、探し出したところ酩酊して半死状態になっていたり、近所に出掛けたはずなのに、江戸から夜船に乗ってふらりと木更津まで行っていたり。安房北条藩の江戸屋敷に仕官していた若い時期には、上司と喧嘩して職を失ったこともあります。



「木曾道中 岩村田」千葉市美術館蔵

謎に満ちた「岩村田」ですが、この一枚の絵からも英泉の奔放な一面が感じられるようです。

馬頭広重美術館 主任学芸員 長井裕子

【会 期】 前期 5月26日(日)まで  
後期 5月31日(金)～6月30日(日)

【記念講演会】 5月18日(土) 午後1時30分～  
講師:及川茂氏(日本女子大学教授)  
演題:「ジャポニスムと浮世絵」

【ミュージアムトーク(展示解説)】  
6月1日(土) 当館学芸員 午後1時30分～

【開 館 時 間】 午前9時30分より午後5時まで  
(但し入館は4時30分まで)

【休 館 日】 月曜日  
5月27日～30日は展示替のため休館

【入 館 料】 大 人 700円(630円)  
高・大学生 400円(360円)

※( )は20名以上の団体料金。

※70歳以上、中学生以下は無料。

※障害者手帳をお持ちの方・付き添い1名は半額

## 平成24年度 那珂川町観光写真コンテスト 受賞作品

### 最優秀賞「春の訪れ」

山岸修一さん(宇都宮市)

撮影場所:富山

「メインの花を目立つようにと思い、魚眼レンズを使用。」

どの花をメインにするか、ロープ際で形よく咲いている花を見つけるのに全体を覗いて回り決めました。また、左側の上方から朝の光が差し込み、花びらに光が差し込むのを待って撮影しました。」



### 優秀賞「厳肅に」

本田みち子さん(宇都宮市)

撮影場所:鷲子山上神社

